

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成23年7月14日 (2011.7.14)

【公開番号】特開2011-104077(P2011-104077A)
 【公開日】平成23年6月2日 (2011.6.2)
 【年通号数】公開・登録公報2011-022
 【出願番号】特願2009-261660(P2009-261660)
 【国際特許分類】

A 6 1 J 3/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 J 3/00 3 1 0 F

A 6 1 J 3/00 3 1 0 K

【手続補正書】

【提出日】平成23年4月8日 (2011.4.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

処方にあわせて薬剤を供給可能な薬剤供給手段と、
 薬剤供給手段から供給された固形薬剤を一包分ずつ溜め置き、排出することが可能な貯留部を備えた薬剤準備手段と、
 前記貯留部から排出された固形薬剤の数量を計数可能な計数手段とを有し、
 前記計数手段が、
 前記貯留部から排出された固形薬剤が載る薬剤監査台と、
 前記薬剤監査台を振動させることが可能な振動手段と、
 撮像手段によって得られた画像に基づき固形薬剤の数を計数可能な画像認識処理手段とを備えており、
薬剤監査台に対して一包分として排出された固形薬剤を撮像手段により複数回にわたって撮像することが可能であり、
撮像により得られた複数の画像のそれぞれについて画像認識処理手段による固形薬剤の数量の計数を行い、各計数の結果得られた固形薬剤の数量と、処方データに基づく一包分の固形薬剤の数量とを比較することで数量監査を実施することを特徴とする薬剤払出装置。

【請求項 2】

振動手段が、薬剤監査台を水平方向に往復動させることにより前記薬剤監査台を振動させることが可能なものであることを特徴とする請求項 1 に記載の薬剤払出装置。

【請求項 3】

薬剤監査台が振動している間に、薬剤監査台に対して一包分として排出された固形薬剤を撮像手段により複数回にわたって撮像することが可能であり、

同一の処方に係る固形薬剤について撮像により得られた複数の画像のそれぞれについて画像認識処理手段による固形薬剤の数量の計数を行い、各計数の結果得られた固形薬剤の数量のうち最も多いものが、当該処方に係る固形薬剤の数量であると認識されることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の薬剤払出装置。

【請求項 4】

薬剤監査台の底面に、薬剤監査台の振動方向に沿う方向にのびる凸部及び／又は凹部に

よって形成された溝が、前記振動方向に対して交差する方向に複数形成されていることを特徴とする請求項 1 ~ 3 のいずれかに記載の薬剤払出装置。

【請求項 5】

薬剤監査台が、前記薬剤準備手段に対して外周側あるいは内周側に隣接する位置に設けられたものであり、

薬剤準備手段が、複数の貯留部を周方向に並べて設けたものであり、前記薬剤監査台に臨む位置まで各貯留部を移動させ、各貯留部から前記薬剤監査台に向けて固形薬剤を排出可能なものであることを特徴とする請求項 1 ~ 4 のいずれかに記載の薬剤払出装置。

【請求項 6】

固形薬剤が載る薬剤監査台と、

前記薬剤監査台を振動させることが可能な振動手段と、

前記薬剤監査台を振動させた状態において、前記薬剤監査台に存在する固形薬剤を撮像可能な撮像手段と、

撮像手段によって得られた画像に基づき固形薬剤の数を計数可能な画像認識処理手段とを備えており、

薬剤監査台に対して一包分として排出された固形薬剤を撮像手段により複数回にわたって撮像することが可能であり、

撮像により得られた複数の画像のそれぞれについて画像認識処理手段による固形薬剤の数量の計数を行い、各計数の結果得られた固形薬剤の数量と、処方データに基づく一包分の固形薬剤の数量とを比較することで数量監査を実施することを特徴とする計数手段。

【請求項 7】

固形薬剤が載る薬剤監査台と、

前記薬剤監査台を振動させることが可能な振動手段と、

前記薬剤監査台を振動させた状態において、前記薬剤監査台に存在する固形薬剤を撮像可能な撮像手段と、

撮像手段によって得られた画像に基づき固形薬剤の数を計数可能な画像認識処理手段とを備えており、

薬剤監査台に対して一包分として排出された固形薬剤を撮像手段により複数回にわたって撮像することが可能であり、

同一の処方に係る固形薬剤について撮像により得られた複数の画像のそれぞれについて画像認識処理手段による固形薬剤の数量の計数を行い、各計数の結果得られた固形薬剤の数量のうち最も多いものが、当該処方に係る固形薬剤の数量であると認識されることを特徴とする計数手段。